「せんだい・みやぎオータムセミナー」に参加して

「せんだい・みやぎオータムセミナー 2008：１５０人のアツい声が響く　ココロのスイッチが入る瞬間！」というイベントの講師の一人として参加した。

このイベントは、「働くことや生き方を考えるきっかけとなる多様な出会いの創出を目指して、１日で（講師）１００人以上の市民講座を大学のキャンパスで開催する『夢の学校』」が唱い文句のよう。
誰もが先生、誰もが生徒」の趣旨で、運営には、大学生・経営者・サラリーマンなど、様々な立場の人がスタッフボランティアで参加し、受講も無料で、もちろん講師もボランティアで。

仙台では昨年から開催され、今年は１５７講座、延べ受講生数２３００人以上だったとか。
市民が互いに講師、聴講生になって、特に、若者たちに色んな大人の生きよう（様）を知ってもらう趣旨には、共感、賛同できますよね。

私が講師になった経緯は、知人から「高校生たちに話してくれ」と言われ、てっきりどこかの高校に行っての講話と思い気軽にＯＫし、関係者に紹介されたが、後で知るとこんなドデカイ企画イベントだった。
関係者との打ち合わせの過程で次第に分かってきたことだが、不特定な受講生対象なだけに実際に聴講する人がいるかどうかは当日の割り当て時間にならないと分からないというし、私の話すテーマは福祉関係の地味なテーマなのでなおのことで、正直、引き受けなければ良かったと思った時は後の祭り。

昨年は一人も来なかった講座もあったとかで、私の講座は最終時間枠、しかもゼミ用教室だったので、１０人程も聴講生がいたということは「良し！」とすべきかも……ね。

これも後で分かったのだが、この企画は名古屋が発祥とかで、名古屋では今年は２日間、５００講座。
名古屋と同じようなものをと考え、当県、当市の教委が連携して生涯学習、社会教育の一環とて、仙台の秋の恒例の大イベントに育てたいよう。

それにしても、６０分枠なのに若者に語りかけたいことは山ほど。ついつい、いつものマイペースで纏まりのない講話になってしまった、m(_ _)m

追伸：廊下で立ち話した方からも、後刻次のようなメールをいただいた。
「阿部様のお話がとても強く頭の中に残っています。
短い時間ではありましたが、お話をお聞かせいただき、とても感謝しております。
参加した皆さんも同じ思いを持ったのではないかと思います。」

阿部幸泰　　（2008 年 10 月 14 日　記）